

企画展

詩・書・画・篆刻・刻字  
五絶の文人



初見  
遺作展  
はつみかずお

令和6年

6月15日(土)

~9月23日(月・祝)



【開館時間】

平日：午前10時～午後6時30分

土・日・祝日：午前10時～午後5時

【休館日】月曜日

(祝日の場合は開館し翌日が休館)

【入館料】無料



左上：「日壮」第36回日本刻字展文部科学大臣賞

中央：「日壮」書稿 右下：牡丹（自詠詩）

坂東郷土館ミュージアム



坂東市立資料館

〒306-0502 茨城県坂東市山2726  
TEL 0280-88-8700・0297-44-0055

# 詩・書・画・篆刻・刻字 五絶の文人 初見一雄遺作展

初見一雄氏は、1924(大正13)年猿島郡逆井山村(現・坂東市逆井)に生まれました。茨城師範学校時代、県を代表する書家である関南沖に師事。卒業後は、小中学校教諭として書道、美術を指導するも、50歳を機に退職、書道に専念します。手島右卿、大久保翠洞に師事したことで、漢詩を詠み、印を刻し、詩・書・画・篆刻・刻字全てに造詣を深め、「五絶の文人」(五つの技芸に優れた人)と称されました。その後も、海外における展覧会の開催や中国への取材旅行を続け、2008年(平成20：子年)干支文字切手制作、2017年(平成29)日本刻字展における最高賞の文部科学大臣賞受賞のほか、全日本書道連盟参事等、書道界で多くの要職に就かれました。

生涯、故郷の逆井に居を構え、創作活動とともに後進の指導を行い、公共施設の銘板や歌碑にのこる書から伺い知れるように、地域の文化振興に数々の貢献をして、2018(平成30)年94歳で逝去されました。

2024年は氏の七回忌を迎えるとともに生誕100年にあたります。本展において、ご遺族や書道日新会の皆様の全面的なご協力のもと、氏のお人柄を偲びつつ多岐にわたる書道芸術の成果を展示紹介いたします。



## 初見一雄 略歴

- ・大正13年10月12日生
- ・昭和19年茨城師範学校教育学部卒業  
以後、小中学校教員
- 50歳を機に退職 書道に専念
- ・干支文字切手制作(平成20年：子年)
- ・平成29年第36回日本刻字展文部科学大臣賞
- ・平成30年11月24日逝去

## 〈就任要職(書道関係)〉

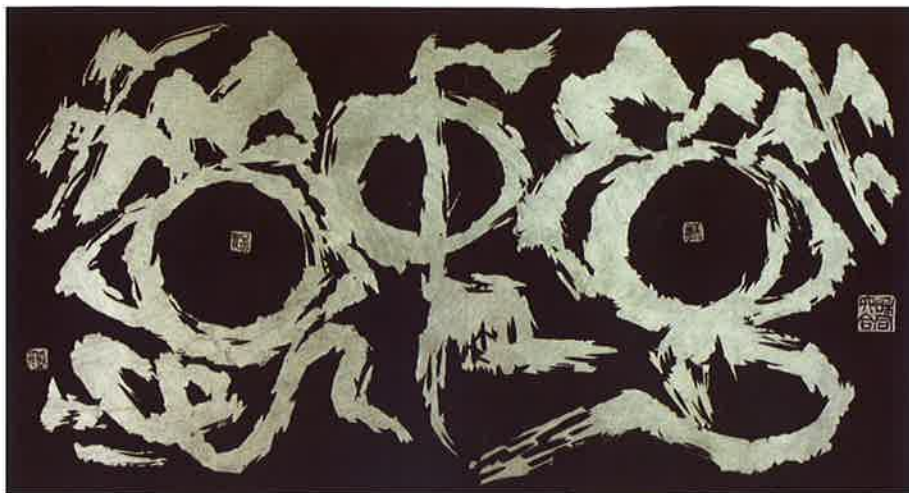
- ・全日本書道連盟参事
- ・毎日書道展名誉会員
- ・日本刻字協会顧問
- ・日中自詠詩書交流会展  
常任顧問
- ・書縁會顧問
- ・書道日新会顧問



牡丹(屏風)



# 刻字



夢中夢



無



心與白雲間



「氣」

猿島公民館前  
ブロンズ像題字

～公共物にのこる作品～



旧猿島町要覧題字

長塚節と親交のあった  
伊藤左千夫（歌人・小説家）を  
送る道中を詠んだ歌

赤駒の沓掛過ぎて 檣の木  
の生子を行けば萱村に  
鳴くやよしきり よしきりの止  
まず口叩き 足悩むと  
ひこずる君を 見るが  
わぶしさ 一雄書

長塚節歌碑（坂東市生子）





# 詩・書・画



花桃（白）



アリーム



山葡萄



日々是好日

## 書画一如

文人画等、線を用いて描く画と書は同じ属性の芸術であるという考え方。

一雄氏は、文人画を制作するにあたり、その描線や着色に於いても、書で鍛錬した動感、質感を有する筆意をもって表現した。

## 篆刻



清流無間斷



一雄信印日利長寿



初見一八十八以後作



安古廬



半聾四一人



圏央道「坂東IC」から車で約10分